

エンブラ系における ユーザコミュニケーションへのUSDMの活用

派生開発カンファレンス2010

2010/6/18
発表者: TIS阿部啓

AGENDA

1. 自己紹介
2. 組み込み系とエンブラ系の違い
3. 課題認識と改善目標
4. 施策
5. 効果
6. 課題
7. 今後に向けて



1. 自己紹介

氏名： 阿部 啓 (あべ あきら)

所属： TIS株式会社 フィナンシャル事業部

略歴：

1990年4月TIS(当時は東洋情報システム)入社
主に法人向けのシステム開発・保守業務に従事

技術領域的には、汎用機からオープン系まで広く浅くやっています。

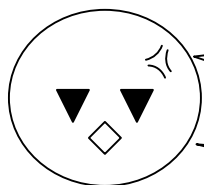
2. 組み込み系とエンブラ系の違い

	組み込み系 (汎用製品)	エンブラ系 (カスタムメイド)
要件定義	企画	契約
ユーザ	不特定多数	特定
ハードウェア	専用	汎用製品

3. 課題認識

不幸なプロジェクトのイメージ

ユーザ



これも**当然要件**だよ!

ダメだなあ!

まっ!よろしく~!

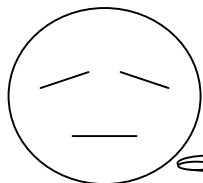
Sier経営者



また**失敗**か!?

今度こそ頑張り!

現場

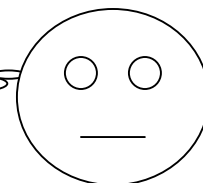


早く帰りたい...

要件決まらない...

とにかく**頑張り**ます...

パートナ



また**仕様変更**!?

(多分)大丈夫っす!

3. 課題認識と改善目標

プロジェクト失敗(デスマーチ化)原因は多様

- 要件以前にリリース日が決まっている！
- 要件定義期間が確保出来ない
- 要件が曖昧なまま見切り発車
- 要員のミスマッチ
- 開発技術力の不足
- プロジェクトマネジメント力の不足
- 品質保証工数確保できず

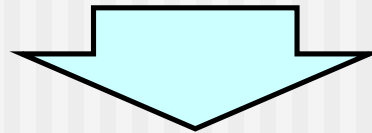
云々

上流工程(要件定義)に端を発する事が多い

3. 課題認識と改善目標

要件定義の大変革が必要！？

要件定義って「ユーザから聞いたこと書くだけ？」
後工程で「これ何だっけ？」**「全然決まってない・・・」**
ユーザ **「イメージしたのと違う！」**



こういう風にしたかった

「**仕様レベル**でばっちりイメージ合わせたい」
「何でそうしたのか？ **背景・理由**を残したい」

3. 課題認識

「仕様レベルでばっちりイメージ合わせたい」

完全な新規開発はほとんど無く、現行システム再利用が多い。
そのため、「現行どおり」という仕様定義が多発する。
これが後々トラブルの種になることが多い。

要件定義段階では仕様の詳細を軽んじる文化？がある。

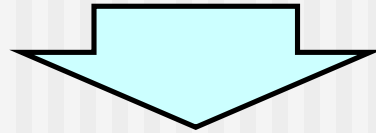
「何でそうしたのか？背景・理由を残したい」

スケジュールのプレッシャーから「要件のFix」に走る。
この時のFix根拠は「ユーザの誰それが言ったから・・・」

こういう要件は後でだいたいひっくり返る。

3. 課題認識と改善目標

そのためには？



書式による誘導が必要

文章形式だと曖昧な箇所を誤魔化せる
表形式で記入欄があると書かざるを得ない

4. 施策

そんな時「USDM」を知りました！

USDM

(Universal Specification Describing Manner)

清水吉男氏(システムクリエイツ社)が考案

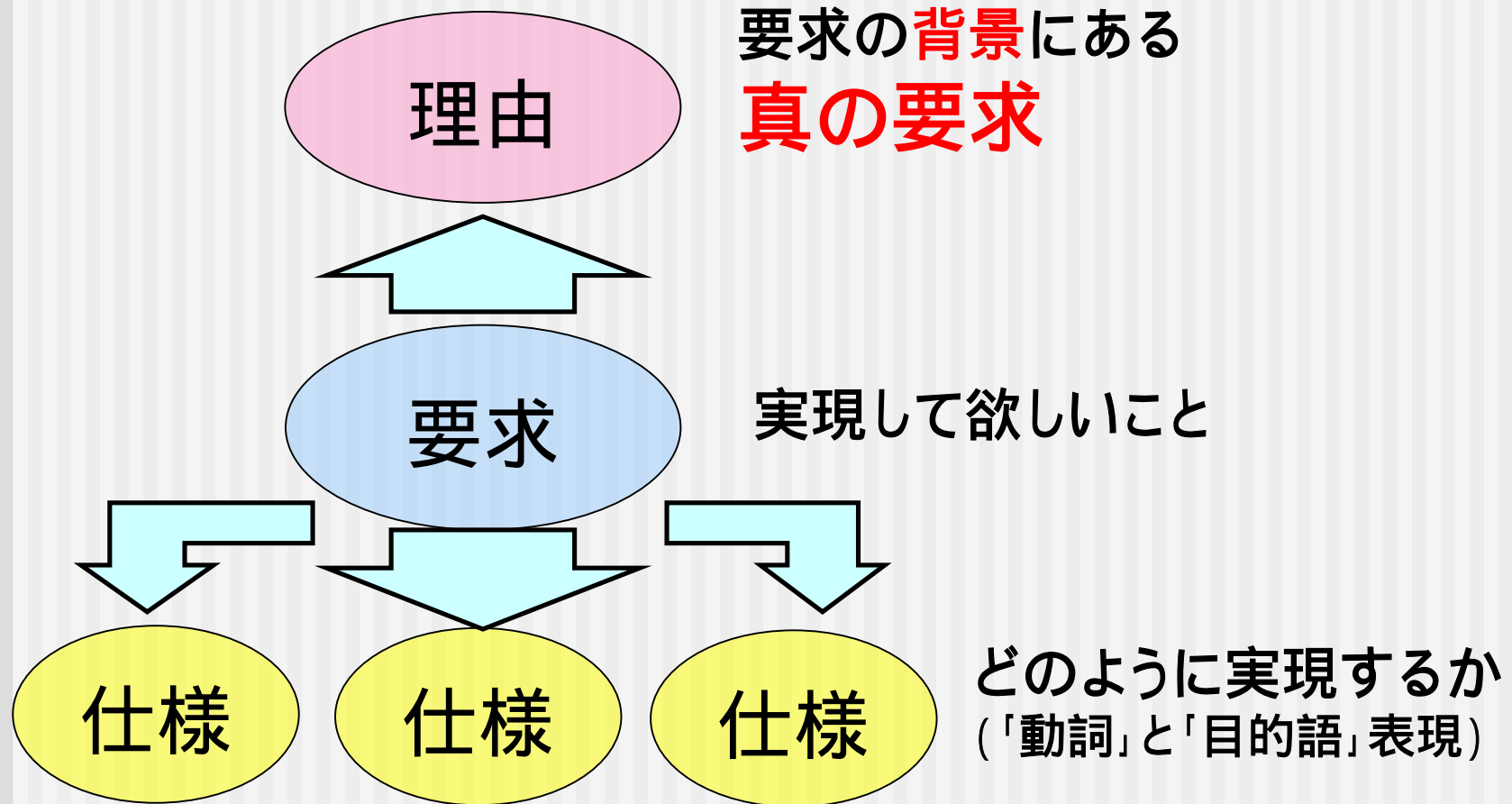
JUAS(日本システムユーザ協会)も採用

・要求仕様定義ガイドライン(UVC)



4. 施策

USDMの概要



4. 施策

USDMの書式 (プロジェクト用にカスタマイズ)

ID	記述区分	内容	理由	改訂履歴
A01	要求	カンファレンスのプレゼンを分かりやすくする	プレゼン効果を高め、USDMを普及するため。	6/3新規 阿部啓
A01-01	仕様	AGENDAをつける	説明の流れを把握しやすい	6/3新規 阿部啓
A01-02	仕様	図表を取り入れる	具体的なイメージがつかみやすい	6/3改訂 XXXのため 記載変更
A01-03	仕様	

要求・仕様のID管理により、**CMMIの要求管理**に対応可

要求・仕様の理由を明記する

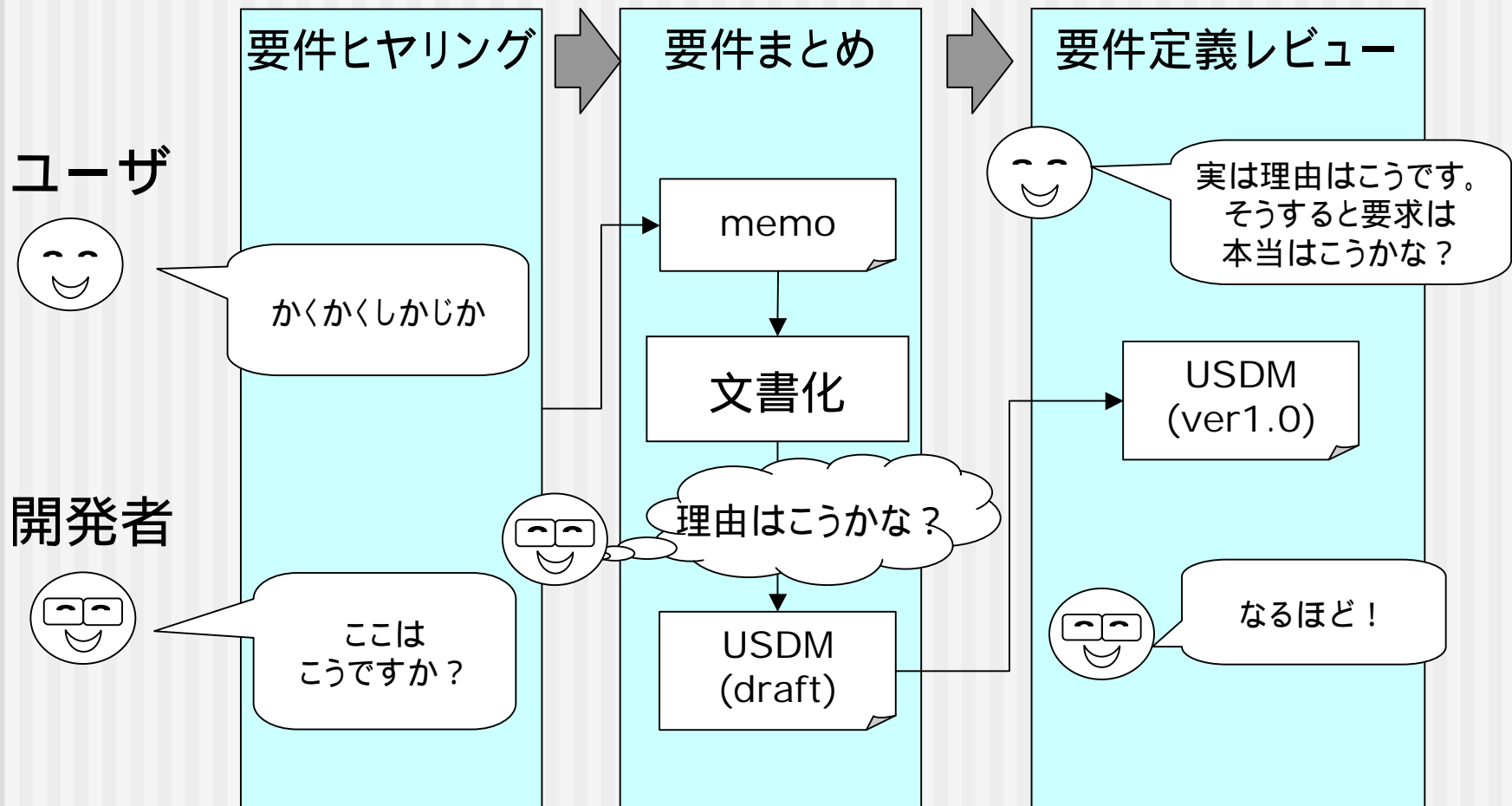
4. 施策

ユーザコミュニケーションへの活用

- 1) 要件定義工程への活用
- 2) 仕様変更管理への活用
- 3) テストへの活用

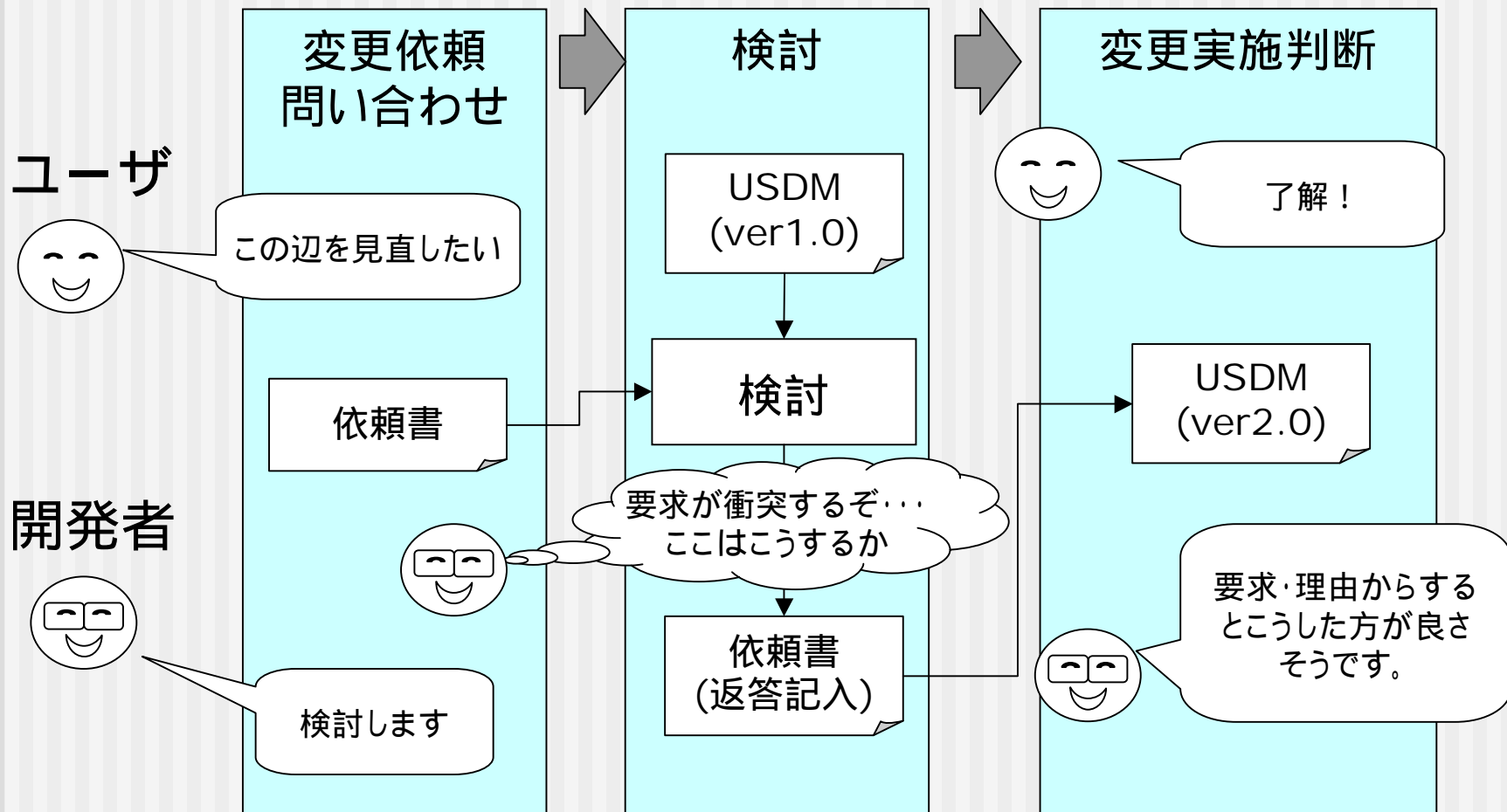
4. 施策

1) 要件定義工程への活用



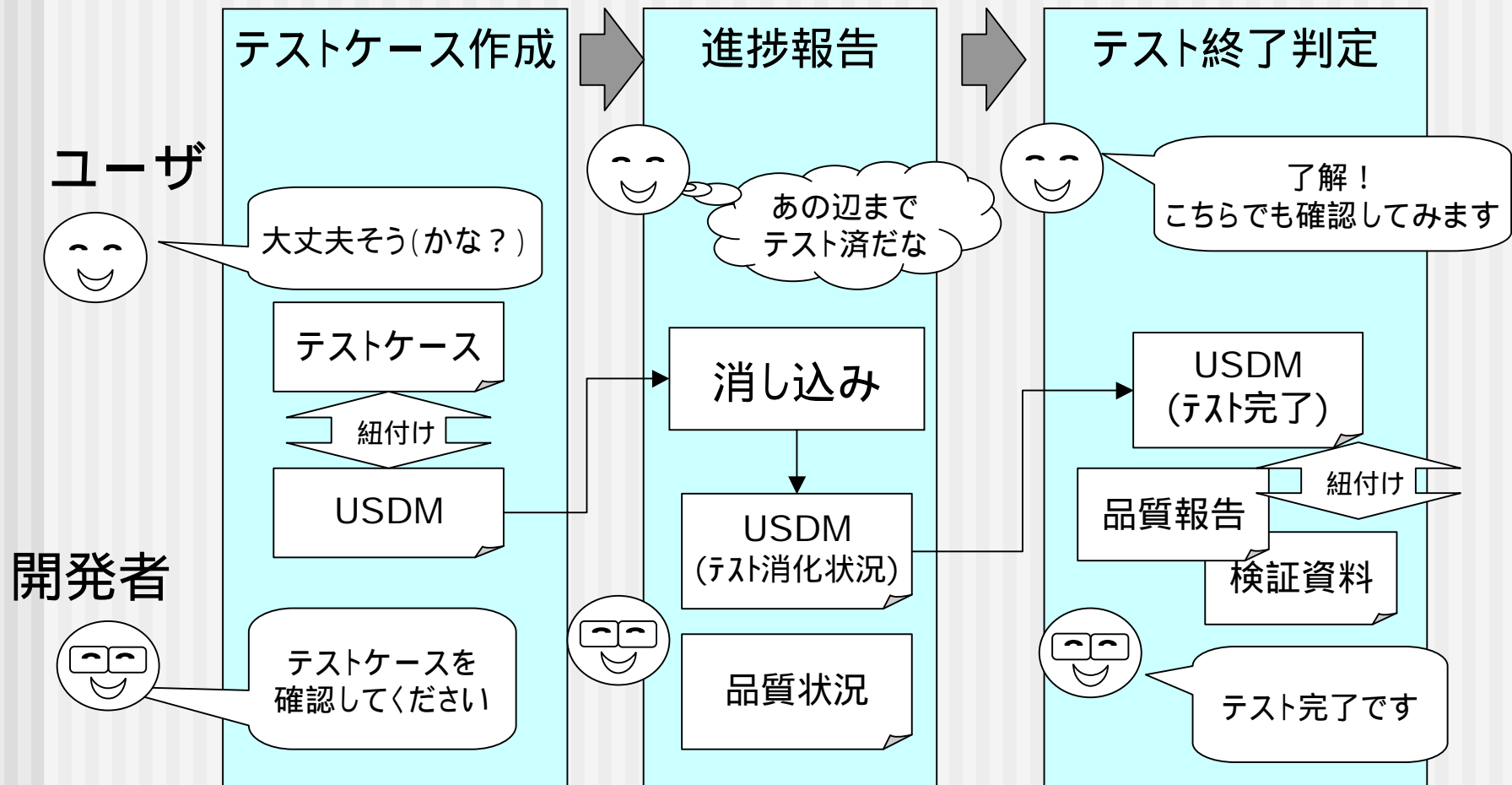
4. 施策

2) 仕様変更管理への活用



4. 施策

3) テストへの活用



5. 効果

USDMの効果を以下の2点で実感

1. 理由記述の効果

2. 要求仕様のリスト化の効果

5. 効果

1. 理由記述の効果

- ・ **思い付き要求の除去**

明確な理由の無い要求はリストからやがて消えていく

- ・ **お客様の「当たり前」の明確化**

「お客様が当たり前と思っていたことを、開発者は知らない」が少なくなった

- ・ **コミュニケーションの円滑化**

「理由」を記述する過程で、より深い対話が得られ、要求の合意形成が容易になった

- ・ **仕様変更、設計変更時の適切な代替案の提案**

技術的要因やプロジェクト要因で、当初想定した仕様 / 設計を満たせなくなったとき、「理由」を考慮した代替案の提示が効果的だった

5. 効果

2. 要求仕様のリスト化の効果

- ・「**現行どおり**」仕様の見える化

丁寧に仕様を記述するようにしたため、「現行どおり」となっていた曖昧な仕様がなくなり見積精度向上、手戻りも回避された

- ・**テスト進捗**の見える化

テストケースの消化率ではなく、要求仕様の消化率で示したことにより、お客様に分かりやすい報告となった

- ・要求変更時の**要求衝突の回避**

要求が変更されたときの、他の要求への影響を分析しやすかった

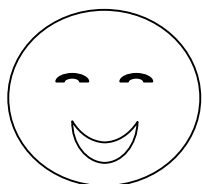
開発のあらゆる工程へ活用できた！

5. 効果

プロジェクトの到達点(イメージ)

顧客

課題解決提案が助かった!



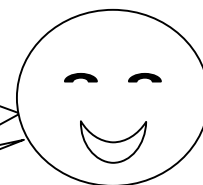
業務をよく分かった!

難易度高いが品質満足!

また、よろしく!

Sier 経営者

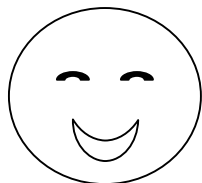
今回は良かった!



次も頑張れ!

現場

苦労はしたが

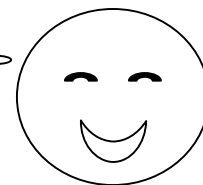


開発が出来て良かった

次も頑張ります!

パートナー

色々経験できた



次も大丈夫っす!

6. 課題

1) 要求仕様の記述順序・グルーピング

要求・仕様が多岐に渡る。(非機能要件などもある)
これらの記述順序・グルーピング方法に苦慮した。

ユーザの関心事の順、業務シナリオ順など個別に工夫か？

2) ビジネスルール詳細の表現方法

複雑なビジネスルールを表記する必要があったが、それを
USDAMとリンクさせる方法に苦慮した。

USDAMには概略記述し、詳細は別紙参照とした。

7. 今後に向けて

1) SQiP研究会の課題の発展

XDDP + 機能間マトリクスによる派生開発テスト

http://www.juse.or.jp/software/167/attachs/5_1_report.pdf

2) 他の要件定義技法との融合

UMLのユースケース記述へのUSDM適用

ご清聴ありがとうございました。